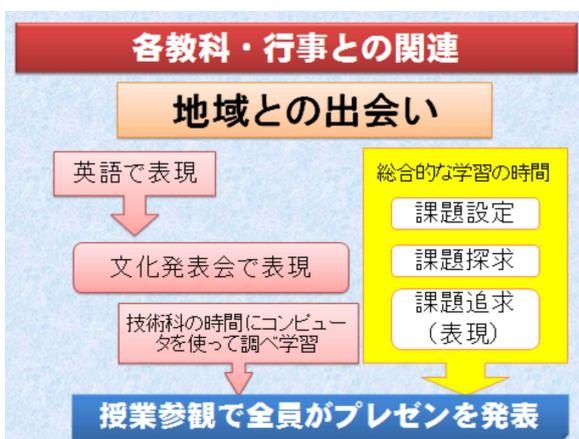


大牟田市立勝立中学校

1 本校のESDの特徴

本校は、教育活動全体の中にESDの視点を位置づけ、ESDがめざす6つの構成概念と7つの重視する能力・態度の育成を中心に据え、本校の学校目標である豊かで健やかな身体を持ち、自ら学び、自ら考え、真剣に生きる生徒の育成をめざしている。特色は「地域とのつながりを意識し、自ら学び、表現できる生徒を育成」である。そのため、教育資源を教材化し、教材開発のプランニング・各教科との関連と



のバランスをとりながらいかに示す総合的な学習の時間を中心に、研究・実践を行っている。

特に本校のESDの特徴として、

- 地域との絆づくりのために、地域のひと・もの・ことを活用する。
- 「総合的な学習の時間」と学校行事、各教科、領域との関連を図る。
- 各学年の総合の時間に技術科において情報教育を行う。
- 課題との出会い→課題設定→課題探求→課題追求の学習過程を経て、を視点において取り組んできた。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校のユネスコスクールとしての活動は、ESDの目標として、

「学校の教育活動全体を通して、人格の発達や、自立心、判断力、責任感などの人間性を育むと共に、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かわり」「つながり」を尊重できる生徒を育成する」ことである。

この目標を達成するために、教育活動全体を通して行う。地域学習として、第1学年では地域学習(歴史、文化、自然)、第2学年では、修学旅行を通しての伝統文化、第3学年では、将来、親になるための「福祉・保育学習」を行う。

また、進路学習においては、第1学年で「社会見学」として地域の企業を訪問した。

勝立中学校の 総合的な学習の時間では		
1年	地域学習	社会見学
2年	伝統文化	職場体験
3年	福祉・保育学習	進路学習

3 特徴的な活動事例

本校の第1学年では、「地域との絆づくり」をスローガンに総合的な学習の時間を設定した。

地域との絆を創るためには、地域との連携「地域から受信し、地域へ発信する」ことが大切であるとする。

そのために、まず課題と出会う場として、「地域探索」を設定した。そこで、地域の歴史や文化、自然を紹介しておられる、「玉川お宝百景の会」の方々に講師に招き、それぞれ3班に分かれ、講師の先生と一緒に地域探索を行った。

【写真1】

そのときの様子を、今年度行われた文化発表会では、英語の群読として地域のよさを表現することができた。【写真2】

次に、課題設定の場面においては、地域探索で印象に残ったことを基に、各個人ごとにテーマを設定した。ただし、ひと月ぐらいの猶予をもって何度かテーマを変えることも可能とした。

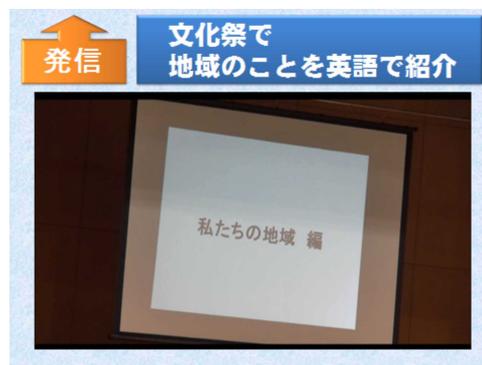
その間に、図書室やコンピュータのインターネットを使って調べ学習を行った。

最後に発表する場として、土曜日授業の保護者参観日に2時間、全員の発表の場を設定した。【写真3】

色んな発表があり 山、海、人、草花、等
発表者が823年も経てりとは驚き
女性も多し発表内容もかわり
とても楽しい発表会でした



【写真1】 地域探索



【写真2】 文化祭での発表



【写真3】 土曜授業での保護者への発表会

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・ 地域のことを自分の身近なこととしてとらえることができた。
- ・ 発表の場面を設定することで、保護者や地域へ発信することができた。

○課題

- ・ 学年間の交流や他の学校や機関との交流を図る機会を持つ。
- ・ ESDを校務分掌の一番上に設定し、教師全体で取り組むことができるようにする。